

みなしご通信



SNS・クラブファン 潜む危険

話は10年前にさかのぼります。犬の虐待死事件が起きそれをやっているときうちと同じような《シエルター型》の愛護団体を目指しているという他県在住の男と知り合いました。そのころ男はセンター引き出しを始めたばかりで1匹2匹を引き出しては丁寧な譲渡活動をしていたので私は好感を持ちました。

それから何年か経ち男は驚くほどヘンピな町にあって日当たりが悪く非常に使いにくい建物を借りてシエルター兼自宅としたのです。そのとき私は『シエルター運営は金じゃないんで！人なんで！こんなド田舎まで手伝いの人が来るんか？』と聞いたのですが『同じ県内のご夫婦が協力してくれるので犬2、30頭ならイ

ケます』と答えました。危険性は感じましたが2人協力者が居るなら30匹は大丈夫と思いましたが正直に

言うところでは他人事でした。それから1、2年経ったころ、男が崩壊したらしいと聞き当時この男と一緒に活動していた《栃木県の女》に場所を教わりました。うわさ通り崩壊していましたが、猫1匹と犬20数匹だったので立て直しは簡単じゃと思いましたが。話を聞くと協力してくれるはずの夫婦は「遠い」と言い出し来なくなつたんだそう。シエルター運営にとつて一番困るパターンです。

かねてより私が言っているように活動資金がないときは活動すべきときではないのです。いかに《良い人材》を集めることができる

かに尽きるのです。これをきちんとやっておれば《正しい目を持つ良き人》からいつか必ず支援してもらえようになります！この順番は大事です。《良き支援者》は★代表者の《人となり》をしつかり観察して★団体が支援にふさわしい活動をしているかを《確かな目》で見えています。

崩壊した理由ですが高額な家賃と保護犬たちの生活費をねん出するため男はフルタイムで働くことになり山奥から職場まで片道90分Ⅱ往復3時間、プラス仕事で9時間。単純計算でも12時間も働くわけですから帰宅したときは疲れ切つて犬の世話は無理…頼みの綱の夫婦は来なくなり環境がどんどん悪化したわけです。猫1匹は今すぐ私が連れて帰つて、犬は手術してパドック式の犬舎を建てて今いる子を育てていこう！となりました。※この段階で男は

センター引き出しはやめていた。このとき強く引つ越しを勧めなかったことを私は今でも悔やんでいます。そして犬同士のケンカ防止のセオリー通りまずはオス犬全頭をうちで手術をして『次はメスじゃの！』と約束しました。

このまま進めて行けばなんと丸く収まると思つていた矢先、一緒に活動していた栃木の女が「あの二人に二度と保護活動をしてほしくないから崩壊の事実を公表する」と言い出しました。私は『それだけはやめろ！』と何度も言いましたが女は《仲間と話し合った》とか《仲間が許さない》とかで男が仔犬のころから飼つていた老犬も私が去勢手術を施したオス犬たちも《犬全頭を引き上げて》男の実名とシエルター内部の写真をSNSで公表してしまいました。

世間にさらされた男は事情をなにも知らない正義の人たちから叩かれまくり心を閉ざし病んでいきました。生きとるか死んだるかともわからん状態は3年経つた今もなお続いており私は現在

も数ヶ月おきに男のシエルターを訪ね安否確認だけをしていきます。

この男の事件は私の中では非常に大きくあのととき公表すると言った女とその後ろで《女を操っていた女たち》の存在を知つていながら流してしまつた自分を情けなく思い、心から反省しました。だけど私がどんなに反省したところで《人ひとり》が廃人になつたわけでも《あとの祭り》なんですよ。あのととき無理にでも引越させておれば後悔だけが私の中で大きく残っているのです。

近頃は良いことも悪いことも見境なしに実名・顔写真・動画付きでSNSにあげる人がいるでしょ。そしてたらずぐにそのあとからさらなる新情報をあげる人が出てきます。たとえそれらが事実だったとしても問題が解決していかないうちに世間に流してしまうと真実を知らない人たちの間であること&ないことが叫ばれるようになり、拡散され、そ

のせいで命も消える。男をさらした女に私は言いまして。『次はあなたが誰かからさらされますよ！』そのとき女は「うちは大丈夫です！ボランティアさんが居てちゃんとやっていますから」と笑って答えました。

が9月23日その通りのが起こりました。この女が《今回の崩壊現場となった》栃木しっぽの会の代表者なのです。私は本人に電話して現シエルター内に居る犬と猫の状態と頭数を聞き解決策を考えとりあえずクラウドファンディングをやめるよう言いました。

私はクラファンが大嫌いです。ドッグランがあったら犬の生活の質が良くなるそりゃ〜良くありませんよ当然！だけどそれを作る資金がないなら犬は保護しなければよい。これが一番明瞭で美しいじゃないですか？愛護活動はやっただけの対価を支援と言う名でいただく。これこそが活動する私たちの醍醐味であり私たちの心のよりどころであり日々

の張り合いなのです！

栃木しっぽの会はずでに崩壊してしまいました私が私の《今後の構想》としては★《心ある人》に掃除のボランティアを頼むとして現シエルター内に居る犬のほとんどが栃木県の愛護センターから引き出した野犬もしくは咬みつき犬なので譲渡できないから★パドック式犬舎を建てて今の状況から犬たちを解放する：この計画を速やかに遂行するためにはとにかくこの騒ぎを沈静化させるしかないのです。急いで書類を作成し犬と猫の所有権を犬猫みなしご救援隊に移転しました。そうしないと連日連夜人がやって来て写真を撮ったり動画を撮ったりで、女は車の音を聞くだけでドキドキして夜も眠れず2週間で10キロ痩せたそう※男は30キロ痩せてます！

年前から知っていた。★クラファンなんかを使っていたら遅かれ早かれ崩壊すると思っていた。★同じ栃木だから知らんぷりはできません。できることがあるなら私はやっていきたいんです。栃木しっぽの会に保護されていた猫26匹は全員うちに連れて帰りました。今回の崩壊事件の《主たる原因》は栃木県にありません！栃木県は栃木しっぽの会に8年に渡りダラダラ《主に野犬》を渡していたのです。これが《殺処分ゼロ》と言う言葉の落とし穴。劣悪な環境で何年も生かされるぐらいならいつそあのと殺処分されていた方がよかったです！

私は《殺処分ゼロ》って怖い言葉だなあと思うようになります。さて！ここで皆さまに問題を出します！8年間で栃木県は栃木しっぽの会に何頭の犬を引き渡したと思いますか？センター職員が言うには「ほとんどが中型の野犬で1000頭は超えています」だと！バカなの？栃木県は。誰がどうやって譲渡するん？譲渡できん犬を誰がどうやって世話していくん？いや〜これはすごい、私でもできません！私が福島のとくにできたのは保護した犬が野犬ではなく飼い犬だったことと、南関東や長野県の人が福島で起きた未曾有の出来事に対し心を痛めたからこそ協力してくれたからですよ！あの協力がなかったらねえ！クラファンで簡単にお金が集まり栃木県が簡単に犬を渡す：そりゃ〜誰もが勘違いして調子に乗って最後は崩壊するよね！

今後、犬猫みなしご救援隊としては栃木しっぽの会のシエルター付近にパドック式犬舎を建てます。その土地はすでにあります。整地だけ田原君がやり、あとは業者に委ねます。なんとか《栃木しっぽの会崩壊事件》を收拾していきたいと思っております。

本紙は中谷百里代表ブログ「みなしご庵へようこそ」の記事を抜粋したものです。



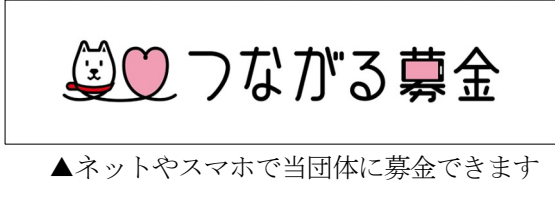
NPO法人 (特定非営利活動法人)
犬猫みなしご救援隊
www.minashigo.jp

犬猫みなしご救援隊
〒731-0234
広島県広島市安佐北区可部町大字今井田690-2
TEL : 082-812-3745 FAX : 082-815-2711

みなしご通信のバックナンバーは、公式ページに掲載しております。「みなしご通信」で検索してみてください。



YAHOO! JAPAN ネット募金



つながる募金
▲ネットやスマホで当団体に募金できます